## 雪と氷の講習会"雪氷の世界を探ろう!-雪と氷の不思議-"実施報告

# ● コロラグスコパラ 。3、高橋 5 鷹哉(札幌市青少年科学館) 3 品景の書の家田田日 1

雪と氷に関する講習会は本学会支部の主催で、79年1月に初めて行なわれた。その後札幌市青少年科学館が開館し、同館と支部の共同で82年1月から同様の催しが毎年もたれるようになった。今年で3回目を無事終えることができたので、その実施状況等を報告し、会員の皆様の御理解を頂くこととしたい。

### ◎講習会の実施内容

講習は①雪の結晶の観察とレプリカの作り方、②氷の薄片作りと偏光板による観察、 ③積雪断面の観察の3種類で、参加者は18名程のグループに分かれて、①~③を順に行なう。講師は学会員と館職員があたり、1回の講習時間は2時間半程である。尚、内容の詳細は"北海道の雪氷"(1,23~28)に掲載されている。また、科学館では小学生向けの小冊子「雪の観察一降ってくる雪・積もっている雪」を作製し、83年からテキストとして、使用している。

表1に参加者の内訳を示す。一番多い名の内訳を示する。この内訳を示する。この内訳をである。3学校5年生を多いる。科学館へのおりたる。2年齢は科学館へのいる。2年齢は大生と一緒のおうれる。人生の大生とし、よりは、1年間に3日間にある。30名余りのおりたところ、30名余りのおりた。

次に、参加者の感想を幾つか示す。 今まで知らなかったことを知った喜び、 実際に確認した喜び、親子で参加でき た喜び、自発的な学習への意欲などが かんじられる。

53 fit	82年	83年	84年	(a)
小学校/~4年生	0人	2人	6人	0 人
小学校5,6年生	2	8 8	5 3	2 8
中学生	3 0	9	1 5	6
高 校 生	6	5	0	0
一 般	1 8	2 5	0	0
首直五不及數官	5 6	129	7 4	3 4

今まで知らなかったことを知った喜び、※夢集対象:小学校5年生以上、82年のみ中学生以上 実際に確認した喜び、親子で参加でき ※a):雪の科学教室の参加者

「雪を掘ったりして、遊んだことはあるけれど、あんな縞模様があるとは気が付きませんでした。・・・とにかく寒かったけど、楽しい実験でした。」(小6・女)

「いつもは手の上に載せて見ていましたが、すぐ融けたり、崩れたりしてしまうので見にくかったのですが、形を残しておける液体があるのを知って、驚きました。」 (小5・男)

「北国に住んでいるのに、雪が降っているとか、結晶があるくらいにしか思っていなかったが、結晶を観察するのにレプリカを作れるなど日常でも観察できることがわかった。雪への親しみを持った。自分でも色々な雪のレプリカを作ってみようと思う。」(30才・男)

「実際に結晶のレプリカを作ってみたかったのです。学生の時、とても美しいのを見た記憶がありますが、あらためて感動いたしました。」(?・女)

「子供と一緒に査心に返ってとても有意義に又楽しい時間を過ごすことができました。」 (40才・女)

「自由研究で雪の結晶のことをしていたので参考になりました。それに友だちもできて、楽しく色々わかりました。」(小5・男)

「北海道にいながら、雪の結晶を見ないまま、今まできました。本日すばらしい雪の結晶を見て、学校に帰りましたら、全校生徒に是非雪の結晶を見せたいと思いました。 冬の科学研究、地域に根ざした、地域の特色を生かした雪や氷の研究こそ、本当の研究 だと思いました。」(59才・男)

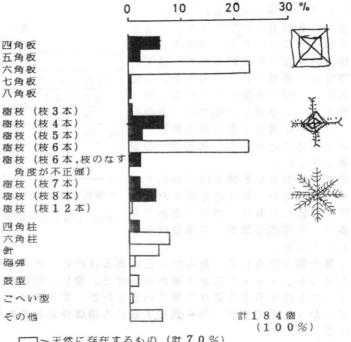
# ◎札.幌の子供の雪の認識

84年の参加者に対して、雪に関するアンケート調査を行い、次のことがわかった。

- ①子供の7割以上は雪に ついて勉強したことが 全くない。
- ②子供の3割以上は雪の 結晶の形を全く書けな かった。

1/4の生徒は雪氷関係 の展示物を取り上げてい た。身の回りの雪氷現象

表2 子供の描いた雪の結晶



□ ~ 天然に存在するもの (計 7 0 %)■ ~ 天然に存在しないもの (計 3 0 %)

に対する関心は決して低くないのである。これらを考え合わせれば、本講習会の持つ意 義は極めて高いことがわかる。

科学館は地域に根ざした館をめざして、「北方圏の気象・雪氷の世界」を主要テーマとしており、本講習会は必要欠くべからざるものです。この会が北国の自然をいとおし

む気持ちを育む手助けにほんの少しでもなればと、願っている。 - 全意愛玄楽

今後共、会員の方々の御協力を御願い致します。また、内容等で御意見がありました ら、是非御聞かせ下さい。

